

KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学 広報誌

2008年 6月発行 No.61

若者の 心



介護福祉科2年生の皆さん

こもれ陽のさす桜の下にて (撮影:天野 貴司)

特集

期待を胸に新入生が集う

■ 公開講座／オープンキャンパス

■ 授業実習風景⑧

■ 教員の活動紹介⑪／先輩から後輩へ⑪

■ 卒業式・謝恩会／キラリ いい顔④

■ 新任教職員紹介／事務部から

■ 学生部から

■ インフォメーション

特集

期待を胸に新入生が集う

臨床検査科の新入生

—入学式前オリエンテーション開催—

■入学式前オリエンテーションの日程

月日（曜日）	主な行事
4月1日（火）	- 医療福祉教養講座① - 学歌指導 - 庶務課・教務課ガイダンス
4月2日（水）	- キャンパスライフ・学生相談について - 医療福祉教養講座② - プレースメントテスト - 各学科オリエンテーション
4月3日（木）	- 健康診断 - 各学科オリエンテーション
4月4日（金）	- 医療福祉教養講座③ - 共通講義紹介授業
4月7日（月）	- 入学式 - 協定会総会 - 部活動・同好会の紹介 - 保護者相談会（キャンパスランチ）

入学式後の円滑な学生生活と授業導入を目的に、4月1日（火）から7日（月）まで、入学予定の新入生に対してオリエンテーションが行われました。今回は、「学歌指導」「コミュニケーションオリエンティング」「キャンパスランチ」が新たに実施されました。このオリエンテーションを通して、「戸惑いや緊張」が「入学への期待」に変わる様子を新入生の表情から、うかがい知ることができました。

今回の特集では、入学式前オリエンテーションで開催された行事の内容と、その時の新入生の様子をご紹介します。

四月一日（火）

■医療福祉教養講座①

医療福祉教養講座は、医療・福祉・保育における幅広い共通知識を学ぶために開講された講座です。

一回目の講座では、川崎学園創設から今日までの歴史をまとめたDVDを鑑賞しました。このDVDを通して、創設者である川崎祐宣前理事長（一九〇四～一九九六）の設立への思いや、川崎学園の歴史を知ることになりました。また、川崎学園の中でも川崎医療短期大学独自の「人をつくる」「体をつくる」「深い専門的知識・技能を身につける」という建学の理念に基づいた本学の教育方針が伝えられました。



スクリーンの人物は
川崎祐宣前理事長

■学歌指導

「自分の母校となるこの大学の学歌はぜひ覚えてほしい。入学式の学歌斉唱では、全員一緒に大きな声で歌えるようになってほしい」。そのような願いから、今回初めて学歌の指導が行われました。

まず、学歌指導では、しっかりと歌うために重要な歌詞の意味を知ることから始まりました。本学の学歌の歌詞は岡山県赤磐市出身の女流詩人であり、数々の賞にも輝いてい



作詞の経緯や歌詞の意味を学習中



在学生と教員による歌唱指導

永瀬清子（一九〇六―一九九五）によるものです。ここでは、永瀬清子が本学の学歌を作詞することになった経緯や歌詞の意味が詳しく説明されました。その後、医療保育科の教員と、在学生の有志による歌唱指導が熱心に行われました。※広報誌「若きいのち」も学歌のタイトルに由来しています。

■庶務課・教務課ガイダンス

本学での学生生活を円滑にスタートさせ、より快適に過ごしてもらうため、事務部が行っている業務についてのガイダンスが実施されました。庶務課からは、在学証明書、学生証、学割等の発行、学費、奨学金、学生保険、福利厚生及び健康管理などの説明が行われました。その後、教務部長の下田健治先生から平成二十年度に実施される医療福祉教養講座の説明があり、引き続き教務課から教育課程、授業時間割、授業科目の履修、単位の取得、試験、成績、学外の実習、免許状、資格などの説明が行われました。



事務部からのガイダンスを熱心に聴く新入生

四月二日(水)

■キャンパスライフ

まず名木田恵理子学生部長から「本学では、学生支援は教育の一環であり、すべての教職員が関わるべき活動であると考えている」という方針についての説明があり、続いて、森喜美子相談員、瀬戸和子養護職員、セクシャルハラスメント防止委員長、山根正信先生の順にそれぞれの担当分野に関するガイダンス



養護職員



相談員



学生部長

スがありました。ユーモアたっぷりに、やさしく話しかける教職員の対応に触れた新入生からは「不安が解消された」「気軽に相談したい」という声が上がっていました。



セクハラ防止委員長

■医療福祉教養講座②

学科を越えた学生同士のコミュニケーションをはかることを目的に、「川崎医療短期大学を探索し、友だちになろう」と題したコミュニケーションオリエンテーリングが、今回初めて実施されました。



スタンプを押す上級生と笑顔の新入生

ここでは、四人一組でのスタンプリング方式で、構内をオリエンテーリングしながら学生間の交流を深めます。方法は、まず配られた番号カードをもとにメンバーを探し、集まった時点で自己紹介を行うことから始まります。次に、地図とスタンプリングカードに記載されたヒントを頼りにチェックポイントを探索します。各チェックポイントで文字がスタンプリングカードに印字されていき、最終的に学歌の一節が並ぶ仕組みです。

教職員に加えて上級生もスタンプリングカードの印字を手伝っています（写真）。

ゴール地点では、賞品や参加賞が配られました。初日の緊張感から解放され、同じ大学でこれから学ぶという仲間意識も生まれ、終始なごやかな雰囲気



オリエンテーリングの様子（左上は優勝グループ）

包まれていました。また、上級生からは「私たちが一年生の時にもあったらよかったのに。うらやましい」という声も聞こえてきました。

■プレースメントテスト

現在、十八歳人口の減少や入試の多様化により、入学時の基礎学力を客観的に判断することが難しい状況になっています。このような状況の中で、本学では適切で効果的な教育活動を行うために、学生一人ひとりの基礎学力を正確に把握することを目的とし、新入生に対して日本語プレースメントテストを実施しています。また、放射線技術科では日本語のプレースメントテストに加え、数学のプレースメントテストも行われました。



数学のテスト風景（放射線技術科）



プレースメントテストのチラシと日本語の問題

このテストは、独立行政法人メディア教育開発センターが開発したものです。全国二十万人の中・高校生を対象とした基礎学力調査の調査結果に基づいています。

近年問題となっている語彙力の低下が影響しているためか、学生からは、難しかったという感想が出ていました。

四月三日(木)

■学生健康診断

入学式前オリエンテーションでは、健康診断も実施されました。検査項目は、身長・体重・血圧測定・尿検査・胸部X線検査です。この健康診断は、本学が医療短期大学であるという長所が、発揮されたものになっています。

他大学では、委託をしなければならぬと考えられる血圧測定は看護科の教員、尿検査は臨床検査科の教員というように、専門の資格をもつ教員によって実施されています。白衣を着て測定にあたっていたため、信頼できる医療人という印象しかなかったのではないのでしょうか。本当は、本学の教員だったと気づいた新入生は、どれくらいいいのでしょうか。

また、体重・身長測定も教職員が実施しました。身長は高くあつて欲しい、体重は控えめであつて欲しいという新入生の心の声は、測定にあたった教職員に対して、測定をもう一度という懇願や、ため息や短く発せられる「えー」「あーあ」という感嘆の声に変わっていました。



看護科の教員による血圧測定

四月四日(金)

■医療福祉教養講座③

株式会社サンキから近藤栄達氏を講師として招き、医療における基礎知識と、医療人としてのマナーや患者とのコミュニケーション能力の向上を目的とした講義が開かれました。



近藤栄達氏による講義風景

講義内容は、はじめに「医療を取り巻く環境と基礎知識」と題して、現在の医療制度や医療費の問題、病院数や医師数の推移などの説明がありました。次に、「良き医療人として」と題し、医療サービスのあり方や質をいかに高めるかについて述べられました。そして最後に、「接遇対応の基本」の説明があり、医療従事者の姿勢として、身だしなみ・言葉遣い・動作態度などの常識かつ必要不可欠な接遇マナーについて指

導が行われました。

新入生からは、「医療人としてこれからどのような生活にしていけばいいのか勉強になった」「医療人として身だしなみや挨拶は基本であり、とても大切だということが分かった」という感想が寄せられました。

■共通講義紹介授業

一般教養科目の多くは、自分が学びたい科目を選択し履修登録する必要があります。多くの大学では、授業目標や授業内容を簡潔に記述した授業概要(シラバス)だけを使って、学びたい科目を選択しなければなりません。しかし、それだけでは、実際に行われる講義の内容を十分に把握できないため、本学では、担当教員自身による講義内容の詳細な説明や受講へのアドバイスが行われました。授業内容だけでなく、担当教員の気質もうかがえると学生たちには好評でした。



「文章表現」の紹介授業

四月七日(月)

■入学式

真新しい制服を着た新入生三百四十名が出席し、入学式が挙行されました。これまでとは違う厳かな雰囲気、新入生はやや緊張した様子でした。



緊張した様子の新入生



学長による式辞

新入生全員を前にした部・同好会への勧誘活動が、毎年恒例の行事として行われています。どの部・同好会も部員を増やすことはそのまま部費が増えることにつながるもので、さまざまな演出でアピールしていました。新入生は、そのパフォーマンスに魅了され、終

■各部・同好会の紹介



弓道部



ダンススポーツ部



合気道部



軽音楽部



手話部



吹奏楽部



入学生代表による宣誓



学歌斉唱(練習の成果があったようです)

はじめに、各学科の担任により、新入生の名前が読み上げられ、守田哲朗学長から「入学許可」と「式辞」が述べられました。次に、新入生代表の八木絵里奈さん(放射線技術科)による「宣誓」が行われ、そして在学生代表の村上睦枝さん(臨床検査科三年生)による「歓迎の辞」が述べられました。式の終盤では、練習を重ねた「学歌斉唱」が行われ(二ページ「学歌指導」参照)、例年にも増して新入生の歌声が式場に響き渡っていました。

始笑みがこぼれ、拍手喝采でした。そして、最後に恒例のビラ配りが行われました。写真付きカラー印刷など個性あふれるビラで、自分たちの部・同好会への入部を後押しするため、新入生一人ひとりに手渡ししていました。



恒例のビラ配り

■保護者相談会（初めてのキャンパスランチ）

入学式、協定会総会の後、保護者を対象とした相談会が実施されました。例年各学科に分かれて行われ、卒業するまでのカリキュラムの構成や、主要行事予定などが説明されます。

今回は、この保護者相談会の時間を利用した新たな企画として「キャンパスランチ」が実施されました。これは、参加した保護者と教員にサンドウィッチと飲み物が配られ、昼食を取りながら相談会を行う企画です。保護者の方々の学生を思う心の強さ



保護者相談会（看護科）

がうかがえる真剣な質問と、これから支援していこうという教員の熱意が伝わってくる充実した質疑応答が繰り広げられていました。

また、保護者相談会と並行して新入生と教員がサンドウィッチの昼食を共にし、親交を深めました。学生主導の自己紹介やゲーム、お互いの印象を語り合うなど各学科趣向を凝らしたホームルームがなごやかに行われました。



ホームルーム（自己紹介：放射線技術科）

学外オリエンテーション（親睦会）

入学式前オリエンテーションとは別に、教員や先輩たちと親睦を深めるため、学科独自工夫を凝らした学外でのオリエンテーションが毎年実施されています。形式にとらわれない「遠足」のような親睦会は、新入生からいつも大好評です。

■介護福祉科

四月十九日（土）、総社方面へささやかな研修へ出かけました。場所は農マル園芸（イチゴ狩り）、吉備路国分寺です。



イチゴを片手にはいポーズ

4種類のイチゴが赤々と実ったハウスの中では、学生もそして教員も満足そうにたくさん摘み取っては頬張っていました。それぞれのイチゴには特徴があり、食べ比べをしてお気に入りのイチゴを探している学生もいました。



吉備路、備中国分寺にて

敷物持参の用意周到な先生方のおかげで、芝生の上でみんな一緒にお弁当を食べました。場所も変わると表情も変わる、みんな楽しそうに教室では見せない元気な顔をのぞかせていました。

■医療保育科

四月二十六日（土）、「倉敷市少年自然の家」にて医療保育科新入生の学外オリエンテーションが催されました。



飯ごう

火力の調整に苦心しながら、とってもおいしいご飯を炊き上げました。新入生の長光文香さんは「めっちゃ楽しかった。あまり話したことがなかった人とも気軽に話せてよかった」とコメントを寄せてくれました。



うぐいす笛

2本の竹を組み合わせて作るため角度に手こずる新入生や教員もいました。そんな中、手早く完成させたのは造形表現が専門の尾崎先生（写真中央）でした。そのため、尾崎先生の周りからうぐいすの鳴き声が次々に聞こえてきました。

■看護科

五月八日（木）、新緑の倉敷チボリ公園で看護科新入生と教員による学外研修が行われました。



入場ゲート入るとチボリのマスコットのお出迎え

北欧デンマーク由来の遊園地・チボリ公園のゲートから入場した途端、チボリのマスコットに出会い、カメラに納まった学生たちです。この先の楽しい時間を予感させた瞬間でした。「はい・チーズ！」



イタリアンクッペンでのランチ風景

気温26度を超える中、グループ活動が終了し、「お腹すいた～、早く食事にして」と、楽しく・おいしく会話も弾むランチとなりました。入学後に知り合ったクラスメートの話題で盛り上がっていました。



ノリノリの男子学生

午後から園内を散策していたら、何やら見かけたことのある集団が…。お揃いのTシャツでVサインをしてカメラ目線でポーズをとっています。この調子で一致団結してこれからの講義・実習をがんばってください。

平成二十年 第一回公開講座

テーマ
花粉症の予防と治療薬

看護科 教授 内田 昌宏

平成二十年三月二十日(木) 午前



熱心に講演中の内田教授

が開催され、一般五十一名、高校生七名に加え、教職員三十三名と在学生二十八名の計百十二名の参加がありました。

講座では、中四国の医師や薬剤師でつくる中四国空中花粉研究会の会員である内田昌宏看護科教員が「花粉症の予防と治療薬」と題して講演を行いました。まず初めに、岡山県内の花粉の観測データに基づいて、今年のスギやヒノキ

花粉の飛散量は例年より少なめであるが、五月初旬まで飛散は続き、その後花粉が飛



講演に聴き入る会場

散するため、四月に入っても引き続き対策が必要であるという説明がありました。

次に、内田教授は花粉症発症のメカニズムを解説し、花粉症の治療薬についてどのように作用し効果を示すのか、その場合の注意すべき副作用について、パンフレットを用いながら分かりやすく説明をしました。さらに、花粉症の予防策としては、何よりも花粉に触れないことが大切であると述べ、マスクなどの予防グッズと日常生活での具体的な留意点を紹介しました。

講演中は、メモを取りながら真剣に聴講する参加者の姿が多くみられ、講演終了後は、活発な質疑応答が行われました。また、会場の一角には、スギとヒノキの花粉を見ることができ顕微鏡や、さまざまな種類のマスクが展示されました。参加者は顕微鏡をのぞいたり、マスクを手にとったりして思い思いに体験し、講座は盛況のうちに終了しました。



顕微鏡を覗く参加者

(看護科 合田 友美)

第6回
オープン
キャンパス
開催
平成20年3月20日

る入学前学習の体験を行いました。これは、社会人基礎力としての日本語力を身につけるために漢字検定と文章能力検定の練習問題を実施するものです。参加者には、県外の方も多く、本学に対する関心の高さがうかがえました。学内見学は、五コース用意されていましたが、すべてのコースで全学科を見学できるように組まれていました。当日実施されたアンケートによれば、施設の充実に加えて、教職員の心を尽くした対応も好印象で、「良かった」「楽しかった」「説明が分かりやすかった」などの感想が多く寄せられていました。

(一般教養 橋本 美香)

平成十九年度第六回オープンキャンパスが、「初めの一步——ここにあなたの夢がある——」と題して平成二十年三月二十日(木)に開催されました。今回は、十時から十二時までと限られた時間でしたが、本学の概要説明、入学前学習と体験学習、学内施設見学が順次実施されました。これと平行して進学など「何でも相談コーナー」も設けられました。春休み中であるにもかかわらず、約五十名の参加者がありました。

本学では、AO入試・特別入試・推薦入試で合格した方を対象に、入学前学習として学科別の課題と全学科共通の日本語学習教材が用意されています。入学前学習とは、入学するまでの時間を有効に利用して、大学で必要となる学力の向上を図ることを目的としたものです。

今回のオープンキャンパスでは、四〇〇号教室において全学科共通の日本語学習教材の一つであるeラーニング(コンピュータを利用した学習)による入学前学習の体験を行いました。これは、社会人基礎力としての日本語力を身につけるために漢字検定と文章能力検定の練習問題を実施するものです。



eラーニングによる入学前学習を体験



学内施設見学 (看護福祉科)



学内施設見学 (医療保育科)

学内看護実習が始まる前に

看護科は、看護専門科目の中でも特に基礎的看護の技術を学ぶ「基礎看護学・看護技術」から講義や実習が始まります。今回は、新入生が四月に行う「看護技術」の講義や実習の準備を一部紹介いたします。

白衣の採寸

まず、看護師の必須アイテムである白衣についてお話しします。最近では、医療機関で看護師が着用する白衣のデザインが豊富です。本学でも二年前に実習用白衣のデザインを一新し、左袖に「川崎医療短期大学」の文字が刻まれた、丸襟のかわいいデザインになりました。さらに、機能性を考慮しワンピースとパンツロンから自由に選択できるようにもなりました。ワンピースの場合、裾の長さは膝下が原則です。患者様のお世話で腰を低くすることも多いため、上品な看護師の姿を保つにもその長さは必要なのです。この実習用白衣は五月上旬に完成し、一・二年生では学内実習、そして、三年生になると川崎医科大学附属病院をはじめとする岡山県内の病院・施設での臨地実習で着用することになります。



左袖のネーム

白衣採寸の日の学生達は、これからはじまる看護専門職としての講義や実習に大きな期待と不安を感じつつ、初めて着る白衣に嬉しさや恥ずかしさを隠し切れない様子でした。

看護実習室の使用



実習室

次に、広い部屋に十五台の入院ベッドが並んでいる看護実習室でのオリエンテーションについて説明します。ここには、病室にある設備はすべて揃っており、実習で使用する注射モデルや心電計など数多くの用具・器械があります。実習室とはいえ、ここは病室であるという意識をもとに、「実習室での飲食、携帯電話の禁止」はもちろんのこと、「白衣着用時は髪型を整え、ナースシューズを着用する」「ベッドに腰をかけない」「ベッドの上に物を置かない」など基本的な看護の姿勢を説明します。また、学生一人ひとりに実習用の「バジャマ」と「和式寝衣」も貸し出します。これは、学生が患者役となった場合に着用するものです。

リネン類をたたむ練習

このオリエンテーションが終了すると学内実習が始まり、学生三〜四人に一台のベッドが割り当てられ、全身清拭や洗髪、注射法、バイタルサイン測定など看護技術を習得していくことになります。

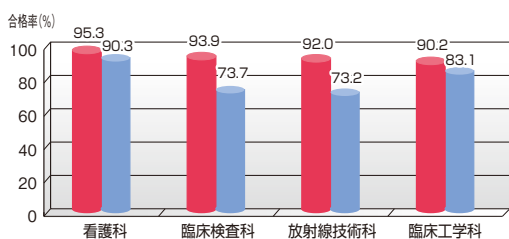
最近の学生は、物品の整理整頓が少し苦手なようです。そこで看護科では、タオル類や三角巾、バジャマ、和式寝衣、T字帯など看護に必要なリネンや寝衣をたたむ練習を行います。最初は、折り目正しくまっすぐに、そしてそれぞれを同じ大きさになるようにたたむことに苦戦しているようです。リネンのたたみ方の習得を通して整理収納はもちろんのこと看護用品をはじめとする物品管理の重要性を学びます。



教員から指導を受ける学生

学内看護実習が始まる前の基本的な準備を通して、用具を大切にすること、思いやりのある医療人としての心を育ててほしいと思います。

平成19年度国家試験合格率（本学と全国）



	看護科	臨床検査科	放射線技術科	臨床工学科
受験日	2月24日	2月29日	2月28日	3月2日
発表日	3月26日	4月4日	4月4日	3月25日

平成19年度 国家試験結果と進路状況

三月末から四月初めにかけて、平成十九年度の国家試験合格発表がありました。全国の合格率と本学の各学科の合格率をグラフにしました。左に示したように、今回もすべての学科で全国合格率を上回る好成績を収めました。

就職については、就職希望者三百七十七人に対して、求人数二千五百三十五件、求人数六千七百九十二人（前年度と比べ四百七十件、九百三人増）と圧倒的に多く、就職率はほぼ100%と非常に好調に推移しました。また、進学は、希望者二十九人全員の進路が決定しました。主な進学先は、岡山大学、神戸大学等の国立大学へ十二人、川崎医療福祉大学等の私立大学へ十一人、公立短大へ一人、各種専門学校へ五人でした。各学科の最新情報は、本学のホームページ（<http://kawasaki-n.ac.jp/jc/home/>）をご覧ください。

教員の活動紹介⑪

放射線治療の隘路と夢

あいろ

放射線技術科 教授 今城 吉成



私は昭和四十三年に医学部を卒業し、外科、小児科、麻酔科などで研修したのち昭和四十五年末に放射線科に入局した。がんに対する化学療法が無効であるという小児科でのいい経験から、ある種のがんを完治させることができた放射線治療に魅力を感じ、その研究班に所属して以来三十六年間にわたって放射線治療に携わってきた。放射線治療を専攻することを決めた時、友人や先輩から「放射線治療なんてものは、もう二十年もすれば無くなって、お前がさあこれからという時に路頭に迷うことになるぞ」と脅かされたものだが、幸いそういう事態は起こらず、現在もがん治療の重要な選択肢の一つとして、当時にまさる存在感を示している。



川崎医科大学附属病院 放射線治療部のメンバー

放射線治療の歴史は古く、レントゲン博士がエックス線を発見した翌年（一八九六）には始まり、五年後には、皮膚がんが完治したとい

う記録が残っている。その後百年余を経た現在、放射線治療は劇的な変貌をとげた。その変化の大部分はコンピュータ技術を中心とした機器の進歩によるが、生物、物理分野のバックアップも見逃せない。極端な話をすれば、正常組織の障害を心配せずに十分な線量を照射できるのなら、すべての悪性腫瘍は放射線治療で根治できる。つまり、より良い治療の提供には放射線障害の克服が欠かせないということになる。近年の放射線治療の進歩の多くが、放射線を病巣に集中して照射する技術であるのもこの理由による。

現在のところ、いったん発生してしまった放射線の障害、特に晩期障害は治すことができず、治療患者さんに極端なQOLの低下を強いることになるが、いずれはこの方面でもブレイクスルーが見られる可能性がある。つまり急性障害から晩期障害に至る機序が、サイトカインや遺伝子、分子生物学レベルで徐々に解明されており、細胞防護的に働く薬剤や、増殖因子の阻害薬などの有望な薬剤が試されつつあるからである。

私はこの三月で放射線治療の現場を卒業したが、臨床の場で放射線の障害を心配することなく治療ができる日が来ることを心から願っている。

先輩から後輩へ⑪

常に向上心を

医療法人ヤマナ会 東広島記念病院 宮崎 由香（臨床検査科二十八期生）



病院の外観

私は川崎医療短期大学を卒業と同時に、東広島記念病院に勤めています。ここで

は、川崎医療短期大学の卒業生もたくさん働いており、毎日一緒に忙しい日々を送っています。

仕事を始めたばかりの頃、巡回検診の現場では、受診者への接遇にとっても緊張し、うまく検査内容の説明をすることが出来ませんでした。また、任された検査を限られた時間内でこなすことに必死で、気持ちに余裕を持てませんでした。しかし、現場に慣れるにしたがって、気持ちに余裕ができ、任された検査だけでなく全体の流れを把握できるようになりました。今では、検診がスムーズに流れるように周囲に気を配ったり、他のスタッフの介助に入ったりと考えながら行動できるようにもなっています。

このようにスムーズに業務をこなせるようになるまでには多くの失敗があり、周りに迷惑をかけて落ち込んだこともありました。正直、辞めたいと思ったこと

もありましたが、今まで続けられたのは、同僚に支えられてきたからだと思っています。

現在、多くの後輩が入り、先輩という立場で後輩を指導する場面では、教えることの難しさを痛感しています。しかし、きちんと指導するためには、自分も知識や技術のスキルを上げ、日々勉強し向上することが大切だと思います。また、病院が求める技師になるためには、先輩などから指示を仰ぎ、与えられた仕事をこなすだけでなく、自分から積極的に効率よく仕事ができるよう、考えながら行動することが大切だと実感しています。

最後に、臨床検査技師という資格だけでなく、視野や知識を広げるために、さらに新たな資格に挑戦する気持ちを持つことも大切だと思います。

常に向上心を持ち続けられる技師を目指して頑張ってください。



検査の様子



写真でつづる 卒業式・謝恩会

3月15日(土)に举行された卒業式と、各学科で行われた謝恩会の様子を写真でご紹介します。



卒業おめでとう

キラリ いい顔 4



介護福祉科1年
小椋唯さん

第六十三回国民体育大会冬季大会長野かがやき国体(平成二十年二月十五日〜二十一日)に国体選手として参加しました。

私は、三歳からスキーを始め、小学三年生のときから競技スキーも始めました。高校二年生の時には、中国大会第三位になりましたが、入学を機に競技スキーから退くつもりでした。しかし、冬の季節が訪れ、雪を見るとどうしてもまた滑りたくなりました。そのため、地元のスキー場で、競技スキーの関係者の方々に支えていただき、基礎練習から再開しました。その結果、県予選をどうにか通過、国体の選手に選ばれることができました。

私が参加した成人女子Aレースは、二月二十一日に長野県野沢温泉スキー場において、エントリー数九十六名で開催されました。当日は朝五時に起床し、早めにスキー場に到着、八時よりコースインスペクション(本番用コース下見)開始、九時より前走スタート(本番前のデモンストラクション)で大会が始まりました。私のスタート順は、七十七番、自分の番が近くなるにつれ緊張も高まります。

第63回国民体育大会冬季大会 輝いて 雪と氷の 華となれ

祝 長野かがやき国体出場

の場をお借りして、お礼を申し上げます。

久しぶりの大きな大会への出場であり、各県の予選を勝ち抜いたトップ選手たちの滑りに少し気持ちが悪く参ってしまいましたが、岡山県の代表選手という誇りと、応援してくださる方々のため「絶対完走」「絶対頑張る」という思いでレースに臨みました。結果は、六十一位と不本意な成績でしたが、レースでは自分の納得いく滑りができ、ゴール直後の緊張からの解放感と、滑りきったという達成感でたまらなく気持ちよかったです。今回の大会出場をきっかけに今後もスキーを続けていこうという気持ちが湧いてきました。

今回の出場にあたり、介護福祉科の先生方だけでなく、川崎医療短期大学にもバックアップをいただきました。国体の開催期間中は、後期試験と重なりましたが、大学に配慮をしていただき、無事受けることができました。それだけではなく、前例がないにもかかわらず、激励金までいただき、快く送り出していただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。



久しぶりの大きな大会への出場であり、各県の予選を勝ち抜いたトップ選手たちの滑りに少し気持ちが悪く参ってしまいましたが、岡山県の代表選手という誇りと、応援してくださる方々のため「絶対完走」「絶対頑張る」という思いでレースに臨みました。結果は、六十一位と不本意な成績でしたが、レースでは自分の納得いく滑りができ、ゴール直後の緊張からの解放感と、滑りきったという達成感でたまらなく気持ちよかったです。今回の大会出場をきっかけに今後もスキーを続けていこうという気持ちが湧いてきました。



新任教職員紹介

本年度から本学の仲間になった教職員の方々を紹介します。



藤原 芳朗 介護福祉科 教授

「はじめまして」というよりも、「帰ってまいりました」という表現が相応しいのかもしれませんが。鈴鹿医療科学大学から4年ぶりに帰ってまいりました。どうか宜しくお願いします。



成廣 直正 放射線技術科 講師

昭和58年に放射線技術科4期生として卒業後、附属病院に就職し、放射線治療に携わっています。病院との併任のため、ご迷惑をおかけすると思いますが、宜しくお願い申し上げます。



森谷 卓也 臨床検査科 教授

担当は病理学です。学生のモチベーションを高められるよう教育に専心したいと思いますのでご指導よろしく申し上げます。医大のメディカルミュージアム副館長も併任していますので、皆様是非お越し下さい。



入江 慶太 医療保育科 助教

みなさん、初めまして。保育現場で働いた5年の経験を生かし、学生の皆さんと一緒に、いろいろな方々から学びながら日々頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



木下 照子 看護科 講師

このたび、看護科の講師として採用していただきました、木下照子と申します。学生一人ひとりと取り組みながら、変化し成長するよう促進し、支援し、問いかけていくことが、自らの研鑽に繋がることを信じて努めて活きます。どうぞよろしくお願いいたします。



神垣 彬子 医療保育科 助教

今年3月に大学院を修了したばかりの社会人1年生です。大学院では幼児心理学を専攻し、こちらでは教育心理学を担当しています。至らない点が多々あるかと思いますが、ご指導よろしくお願い申し上げます。



中桐 逸博 臨床検査科 講師

このたび、川崎医療短期大学臨床検査科講師となりました中桐逸博と申します。附属病院中央検査部および輸血部との併任で、専門は臨床免疫学です。どうぞよろしくお願い致します。



服部 明彦 教務課 課長

この度、用度課から短大事務部に異動となりました服部です。学校関係は全くの初めてということもあり、色々ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



泉 礼司 臨床検査科 講師

はじめまして、臨床検査科の泉です。人間、配られたカードで勝負をしなければなりません。学生さんの個性あるカードを見つけ出し、いろいろな可能性を伸ばしてあげたいです。宜しくお願いいたします。



大高 正憲 教務課 課長代理

今年度から教務課で勤務します。教務に関する皆さんのサポートを一生懸命行ってまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



柳元 真一 放射線技術科 講師

これまで、附属病院では診療放射線技師、本学では非常勤講師という立場でありました。今後は、慈悲の心と研究心を持った診療放射線技師を育みたいと考えております。



堀川 卓哉 施設部設備課 設備技術員

微力ながら、「快適な環境づくり」をモットーに、建物設備の維持管理に取り組んでまいります。施設老朽化のため、多少ご不便をお掛けすることもあると思いますが、みなさんの温かいご協力をお願いいたします。



松田 英治 放射線技術科 講師

附属病院兼務の立場を生かして、教科書だけでは学べない臨床の面白さや難しさ、そして最新情報を後輩の方々へ分かり易く伝えたいと思っています。これを機に皆さんと共に進化したいと考えております。



八田恵美子 総務部情報システム室 技術補助員

はじめまして。この4月から事務室にて、ホームページの管理等を担当させて頂くことになりました。短大勤務は初めてということもあり、至らない点多々あるかと思いますが、頑張って参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

また、事務室へ入室した時、名前さえ名がらず、ただ、ぼーと立っている学生が目につきます。まず、自分から、声をだし、用件を伝えることができる、すみやかに対応ができます。

最近、携帯電話使用が多く、電話を受ける時、自分の名前を名乗るというところは、少ないでしょう。しかし、就職社会にでた時には、それでは通用しません。これらのことは、社会に出て、いきなりできるものではありません。今のうちから、きちんとした対応が出来るように練習しておく必要があります。事務室は、社会と繋がっている場所であり、社会人としてふさわしい対応が出来るように練習するには、格好の場所だとも言えます。事務室での応対を通して、マナーを身につけていただければ幸いです。

事務部から

社会に羽ばたく前に…

事務部教務課
大戸 知子



本学では、「学生支援は教育の一環であり、すべての教職員が関わるべき活動」と考え、全学的に取り組んでいます。昨年度は、学生部が中心となって、教職員による学生健康診断、ホームルーム清掃体制の強化、AEDの適正な設置、寮生活アンケート実施とその改善、教員のための学生対応講座開催、学生玄関セキュリティの強化、学生相談室の体制強化、学生生活満足度調査実施など、学生生活をサポートする活動を企画し実行してきました。このように教職員は、学生のみなさんの心身の健康および学習環境の向上のために常に気を配っています。

ところで、学生支援は「援助」だけではありません。もう一つの役割は「生活指導」であると考えます。学生の皆さんが毎日の生活の中で基本的な生活マナーを身につけることによって、

学生生活を気持ちよく過ごせるだけでなく、実習先、就職試験（面接）、職場において高い評価を得るのに役立つからです。「指導」というと聞きにくいかもしれませんが、社会に出てこういった「支援」が生きてくると信じています。学生生活委員会が協議を重ねた結果、今年度前期の目標を以下の三点に定めました。学生のみなさんにはぜひ意識して実行していただきたいと思います。

学生生活指導重点目標（2008年4月～9月）

（1）挨拶の励行

朝は「おはようございます」、昼以後は「こんにちは」、教員研究室・事務室等に入室するときや下校時には「失礼します」など、挨拶を交わす習慣を身につけましょう。自然に口をついてくる気持ちのよい挨拶は、学生生活において人間関係を円滑にするだけでなく、就職面接時にプラスになり、社会人としての皆さんの評価を高めてくれます。

（2）身だしなみをただす…靴のかかとを踏まない

室内シューズ（サンダル）のベルトをしなやかかとで踏んでいる人はいませんか。無意識のうちにやっているこの状態が身なりに対する意識をさらに低下させる可能性があります。皆さんは将来、看護師、技師、介護士、保育士、幼稚園教諭等になる方たちです。これらの職種は「だらしない見え」では、信頼を失う恐れのある仕事です。まず、足元をきちんとすることから、身だしなみを整えていきましょう。

（3）基本的マナーを身につける…廊下・階段に座らない

最近は路上でも座っている若者が多いことから、この行為が半ば当たり前のことになっています。医療、福祉、保育の仕事を目指す皆さんには、だらしない行動、不潔な行為に対して特に敏感になってほしいと思います。

学生部

川崎学園地球温暖化対策推進委員会発足 —いのちと地球をまもるために—

私たちが生活していく上で、エネルギー消費は必須のものとなっています。このエネルギー生産や消費の過程で排出されるのが、温室効果ガスの一つ二酸化炭素です。現在、大気中の二酸化炭素濃度は、上昇し続けています。このままの状態が継続すると、地球を過剰に温暖化させ、気候変動さらには自然の生態系等に悪影響を及ぼす恐れがあるとされています。

このような地球環境への悪影響を阻止し、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを目的として「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」が、2005年2月に発効されました。この議定書では、先進国等に対し、温室効果ガスを1990年比で、2008年～2012年に一定数値（日本6%）を削減することを義務づけています。これを受けて、わが国では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」などが制定され、国をあげてこの問題に取り組んでいます。この度、わが川崎学園でも、川崎医療短期大学を含む全ての学園関係施設の代表者が会して、地球温暖化対策推進委員会が開催され、地球温暖化防止に向けて参画していくことになりました。本学では、早速、山口恒夫副学長を委員長として地球温暖化対策推進ワーキンググループ会議を開催し、スローガンの設定さらには具体的アクションプランの策定について検討しています。今後、この誌面をお借りして、その経過を報告して行きます。

（看護科 兵藤 文則）

協会会

平成19年度収支決算書及び平成20年度収支予算書

4月7日の入学式終了後に開催された平成20年度協会総会において、下表の平成19年度収支決算書及び平成20年度収支予算書が承認されました。これにより今年度も学生の皆さんの学習や福利厚生及び学生生活や進路等に関する諸活動についての支援が行われます。

平成19年度 川崎医療短期大学協会収支決算書

一般会計

収	入	支	出
会費	9,850,000	学生研修助成費	4,112,336
雑収入（預金利子）	32,619	厚生福利費	3,458,290
前年度繰越金	7,734,797	学生生活指導費	2,952,040
		進路指導助成費	953,732
		渉外費	212,990
		事務費	531,361
		雑費	6,300
		予備費	0
		次年度繰越金	5,390,367
合 計	17,617,416	合 計	17,617,416

特別会計 施設整備基金会計

収	入	支	出
前年度繰越金	22,662,936		0
雑収入（預金利子）	67,691		
平成19年度基金	1,000,000		
合 計	23,730,627	合 計	0
		差引残額	23,730,627

平成20年度 川崎医療短期大学協会収支予算書

一般会計

収	入	支	出
会費	10,300,000	学生研修助成費	4,900,000
雑収入（預金利子）	20,000	厚生福利費	4,450,000
前年度繰越金	5,390,367	学生生活指導費	2,700,000
		進路指導助成費	1,200,000
		渉外費	250,000
		事務費	600,000
		雑費	50,000
		予備費	1,560,367
合 計	15,710,367	合 計	15,710,367

特別会計 施設整備基金会計（予算）

収	入	支	出
前年度繰越金	23,730,627		0
雑収入（預金利子）	50,000		
平成19年度基金	800,000		
合 計	24,580,627	合 計	0
		差引残額	24,580,627

※特別会計は、教育実習のための施設設備及び学生のために特に必要なものを備えることを目的とした積立金です。

平成 20 年

第2回公開講座

講座名 「発達障害児の保育と子育て支援」

講演及び実技演習

講師 小河晶子（本学医療保育科准教授）

内容 乱暴で友だちとトラブルが多い、落ち着きがない、気が散りやすい、こだわりが強い、不器用、触れられるのを嫌うなど子どもさんの気になる行動はありませんか。このような子どもさんの行動に効果的な感覚運動遊びをご紹介します。

日時 8月23日(土) 10:00～11:30

会場 川崎医療短期大学 体育館 101教室
入場無料（一般の方の参加をお待ちしています）

申込み・お問い合わせ先

〒701-0194 岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学 公開講座係
TEL: 086-464-1032 FAX: 086-463-4339
koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

主要行事（7月～9月）

7月	1日	臨床工学科3年学外病院実習・医療機器メーカー実習（～18日）
	24日	放射線技術科3年臨床実習終了
	27日	第3回オープンキャンパス
	29日	定期試験開始
8月	18日	第9期師生訪問団上海訪問（～22日）
	23日	第4回オープンキャンパス
		第2回公開講座
	25日	臨床検査科3年臨床実習Ⅲ・臨地実習開始（～12月11日）
9月	1日	医療保育科2年保育施設実習（～10日）
	8日	看護科3年臨地実習開始（～10月4日）
		介護福祉科1年第1段階実習開始（～22日）
	9日	臨床工学科3年病院実習開始（～12月5日）
	19日	臨床検査科ワッペン授与式
	20日	看護科戴帽・授章式
	27日	AO入試
	30日	放射線技術科授章式 放射線技術科2年臨床実習開始（～翌3月19日）

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(61号)

平成20年6月発行

編集発行：広報誌編集委員会

名木田恵理子(一般教養・委員長)
藤原忠昭(庶務課・副委員長)
橋本美香(一般教養) 影本妙子(看護科)
近末久美子(臨床検査科) 天野貴司(放射線技術科)
立花博之(臨床工学科) 河邊聡子(介護福祉科)
中井 靖(医療保育科) 重政有里(庶務課・書記)

写真協力：二葉写真館

印刷：友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194

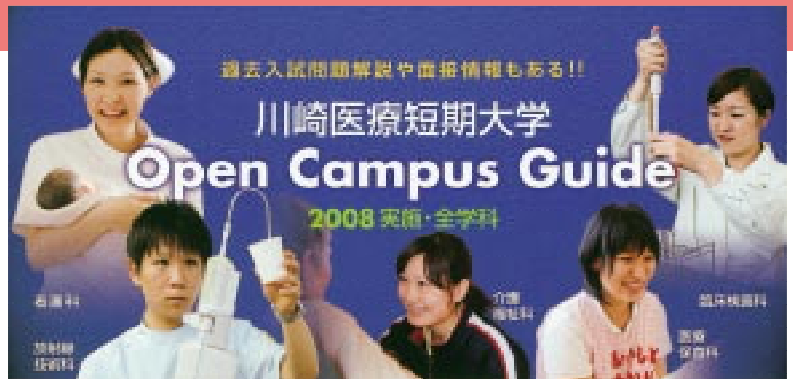
倉敷市松島316 川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話：086-464-1032(庶務課)

Eメール：shomu@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ

http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/home/



2008年度 オープンキャンパス

学科紹介、施設・女子寮見学は毎回実施します。

第3回 7月27日(日)

10:00～15:00

夏休みの1日が
あなたの未来を変える！

- 全体説明会
- 附属病院見学ツアー
- 在学生との懇談
- 進学等相談コーナー他
- 学食体験
- 入試問題解説講座
- 模擬講義・体験実習

Information》AO入試1次面接を実施

第4回 8月23日(土)

13:00～16:00

ワン・アンド・オンリー！
川崎医療短大でしか学べないこと

- 全体説明会
- 入試問題解説講座
- 進学等相談コーナー他
- 在学生との懇談
- 模擬講義・体験実習

Information》AO入試1次面接を実施

平成20年度 医療福祉教養講座日程(第33回～37回)

回	月日	曜	時間	演題	講師	所属・職名
33	4月4日	金	9:00～10:15	『良き医療人として』	近藤 栄達	株サニキ 営業企画部コンサルティング課
34	5月12日	月	13:00～14:30	『和歌のころ』	橋本 美香	本学一般教養准教授
35	6月23日	月	13:00～14:30	『福祉のころ』	橋本 祥恵	本学介護福祉科主任・教授
36	12月12日	金	16:20～17:50	『院内感染と感染予防について』	千田美智子	本学看護科教授 川崎医科大学附属病院看護部長
2009年						
37	1月9日	金	16:20～17:50	『乳がん診療の最新情報』	園尾 博司	川崎医科大学 外科学(乳腺甲状腺)教授

平成20年度 川崎医療短期大学 協会役員

会長	洲脇 伯造	(医療保育科3年)
副会長	前 研治	(医療保育科2年)
副会長	守田 哲朗	(川崎医療短期大学学長)
監事	横山 伸一	(臨床工学科3年)
監事	岡本 裕貴	(看護科2年)

最後に、今年度の本誌編集委員は昨年度と同じ顔ぶれです。苦心しながら共に編集作業を乗り越えてきたためか、委員同士の協力体制は抜群であると自負しています。このような協力の輪が委員会の枠を超えて広がっていくことを期待しております。

(中井 靖)

編集後記

平成二十年度が新たにスタートしました。本学の「春の風物詩」として思い浮かぶものが三つあります。まず、「初々しい新入生」です。今回の特集にもあるように、新生活への期待と緊張が入り混じった新入生の姿を見ると私も気分一新される思いです。次に「仲間として加わる新任教職員」です。本誌の「新任教職員紹介」欄に勢揃いした顔ぶれから新しい風を感じます。そして、「玄関前に咲き誇る桜」です。これまでの本誌六月発行分の表紙に飾られている通り、本学の桜は壮年に春を表現しています。これら三つの風物詩を凝縮させた本誌を通じて、本学における春の様子を皆様へお伝えできていますでしょうか。